

### JAおきなわ 防災用の黒糖の缶詰を開発

栄養が偏りがちな避難生活などでミネラルが豊富な黒糖を活用してもらおうと、JAおきなわが防災用の黒糖の缶詰を開発しました。風味が変わらずに食べられる期間が、従来のものの2倍に長く、長くておいしいです。

この「おきなわ黒糖防災缶」は、県産の黒糖が、需要の減少で在庫過剰の問題に直面する中、JAおきなわが新たな活用策として3年をかけて開発したものです。

避難生活で多くの人に利用してもらおうと、特殊な加熱処理が施され、風味が変わらずに食べられる賞味期限が従来の黒糖より2倍長い4年になっているほか、消費者が手にしたあと少なくとも3年は保存できるようにしています。

また、添加物が含まれておらず、小麦などの食物アレルギー28品目を使っていないのも特徴です。

黒糖にはカリウムなどのミネラルが豊富に含まれています。

JAおきなわでは「栄養が偏りがちな避難生活などで活用してもらいものために役立ててもらえる存在としてほしい」と話しています。

「おきなわ黒糖防災缶」は、9月中旬からJA系列のスーパーで1缶750円から800円で販売される予定です。

### 旧津島小児童が制作 『ふるさとなみえ博物館』 快挙 日本展示学会奨励賞受賞 福島

子どもたちの思いが実を結び快挙です。おとし閉校した福島県浪江町の旧津島小学校の児童が制作した「ふるさとなみえ博物館」が日本展示学会の奨励賞を受賞しました。

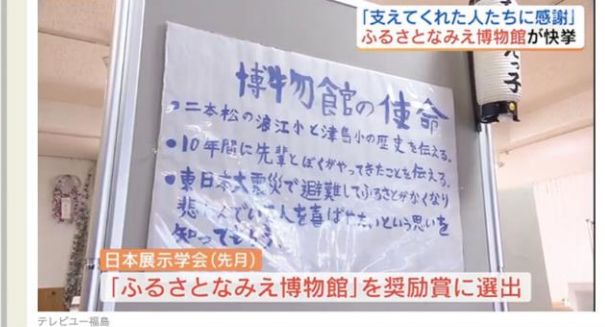
「ふるさとなみえ博物館」は、浪江町の旧津島小学校の児童が、おとし、避難先の二本松市の校舎に作った博物館です。

原発事故で町を離れた児童たちが、ふるさとについて学んだ成果や制作物をまとめて展示したもので、最後の卒業生となった須藤嘉人さんが館長を務めました。

展示はその後、関西地方や新潟を巡回し、各地で評価されました。そして6月、日本展示学会賞の選考会が開かれ、「ふるさとなみえ博物館」が、全国の優れた博物館の展示に贈られる奨励賞に選ばれました。

受賞の理由として、「災害が年齢を問わず一人一人の歴史である」とを突きつけ、鑑賞者に強烈な問題意識の発揚と行動変化を促した」と評価しました。

（2023年7月13日 テレビユー福島）



「僕を支えてきてくれた人の頑張りにより、賞をもらえることになりました。ありがとうございます」とコメントしています。

we support!

**RQ**  
災害教育センター

MONTHLY

「東北に黒糖を送ろう! 大作戦しんぶん」改め

復興支援『すけさきた』

「すけさきた」とは宮城県登米市あたりの言葉で「ボランティアに来たよ」という意味である。

NOVEMBER 11 2023

資料：NHK沖縄NEWS WEB、テレビユー福島